

つなぐしばさき つむぐ

令和3年度 2021.12
コミュニティ・スクールかわら版
発行:立川市立第一小学校学校運営協議会

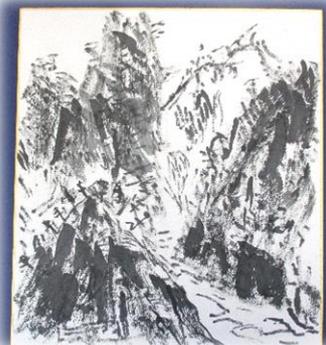
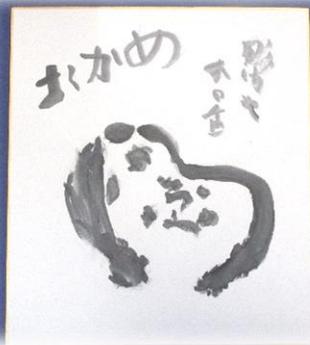
進む 連携! 複合施設の良さを生かした教育活動

柴崎学習館と連携した2つの取組を紹介

あおぞら学級児童 水墨画を体験

子どもたちの作品(一部)

みごとな作品ができました



当日(11月11日午前)の様子

講師を務めて下さった酒井遊山(明尚)先生は、立川市文化協会理事、立川市連合水墨画会会長、高松水墨画友の会講師等として活動されています。

授業の始めには、水墨画についての簡単な説明がありました。事前学習はしていましたが、初めての水墨画体験に子どもたちは少し緊張した表情で話を聞いていました。水と水墨画用の墨液を筆先に付け、調整しながら縦線や横線を描く練習が始まると、「見て!描けたよ!」と嬉しそうに見せてくれる子どもたちがたくさんいました。最後は、色紙に描いて作品を完成させました。



今年度のあおぞら学級には、低学年9名、中学年9名、高学年7名、合計25名が在籍しています。低・中・高の子どもたちの段階に合わせてテーマや描き易さを選び、酒井先生が1枚ずつ色紙に鉛筆で下描きをしておいてくださいました。

毛筆を使った書写の授業を経験している4年生以上は、すぐにコツをつかみ、最後まで一人で作品を仕上げることができました。

体験学習後に酒井先生に作品についてお聞きしたところ、「初めて水墨画を描く際には、線の色が濃いか薄いかのどちらだけになることが多い。あおぞら学級の子どもたちは、線の濃淡や太さに変化を付けながら描いている」と感心されていました。子どもたちの個性や工夫が反映された素晴らしい作品が完成しました。

実施までの経緯

「あおぞら学級宿泊学習」の体験学習プログラムを検討する中で、感染症対策の観点から校外施設での活動には様々な制限があり、第一小学校の複合施設という利点を生かすことを考えました。そこで、柴崎学習館館長の高野さんに相談したところ、生涯学習市民リーダーに登録され、地域の方々を対象に水墨画の講師として活動されている酒井先生を紹介していただきました。（校務主任・市村）

あなたの支援を求めています 一小 そして柴崎を盛り立てましょう

さあ あなたの番です！

お力添えをいただきたい項目をお示しいたします。多くの方々のお申し出をお待ちしています。

低学年	地域探検 商店訪問 やさい栽培(来年度もよろしく願います)
中学年	むかしの生活 水辺の楽校(来年度もよろしく願います) 柴崎分水 玉川上水
高学年	柴崎の歴史 とくに戦争体験 柴崎巡り 稲づくり

皆さんの投稿(ご感想・ご意見・ご提言等)もお待ちしています。

4年生「オストメイト」について学ぶ！

「外見からはわからない障害があります」「オストメイトって何のこと？」

児童の感想（一部）

- オストメイトのことは学習館に行く前は知らなかった。オストメイト人口が23万人ぐらいもいること、一小にもオストメイト対応トイレがあることを初めて知りました。
- オストメイトの人のとく有のなやみごとなどを聞かせていただいて、オストメイトの方の目せんの思いも分かりました。
- オストメイトのことをあまりよくしらなかった。おぼえたこともいっぱいありいかして生活したいです。
- これからオストメイトの人が気楽にらせるように、だれでもトイレは一人じめしない、など気をつけてみんながかいてきにらせるようにしたいです。

学習のねらい

4年生は、総合的な学習の時間に、「ふれあい広場にあつまれ」という単元を設定し、誰もが暮らしやすい街にするために、障害や障害のある人に対する理解を深める学習をしています。立川市には、「立川市障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例」という条例があります。その条例ガイドブック「みんなの笑顔」を基に、障害のある人がどのようなことで困るかを考えたり、どのような対応が考えられるかを話し合ったりしました。

条例ガイドブックの中で、オストメイトについても触れてありました。タイミングよく柴崎学習館でオストメイト展が開催されると聞き、見学させていただくことにしました。パネルを見ながら、オストメイトの方に質問させていただいたり、ストーマ装具を見せていただいたりしました。外見からはオストメイトであることが分からないため、多機能トイレを使ってクレームを受けることもあるそうです。また、オストメイト対応トイレで髪を染めたり、ペットを洗ったりする事例があることに驚きました。まだまだ「オストメイト」は浸透しておらず、それによってオストメイトの方が困る場面は多くあるようです。

見学後、家族にも学習したことを報告するように児童に言いました。後日、保護者の方から「いただいた資料を見せながら詳しく教えてくれました。外からは分からない障害がある人が世の中にはたくさんいることに改めて気づかされました。」と連絡をいただきました。オストメイトの方も「外見だけでは分からない障害がある人もいることを皆さんに知ってほしい」とおっしゃっていました。

日頃から学習したことを生活で自分がどのように生かすかを考えることを大切にしています。学習したことを他の人に伝えることも、今自分たちにできることの一つです。小さな一人一人のはたらきかけが、より暮らしやすい立川にしていくのだと思っています。
(学年主任・新井)

実施までの経緯

この春、柴崎学習館館長の高野さんから「オストメイト対応トイレが学習館にあるのですが、使い方を知らない方も多く、小学生にも学んでもらえる機会があれば

良いのですが…」とお話をいただきました。

一 小では、例年、四年生が障害のある方々についての学習をします。その学習の中で、ぜひ学ばせていただければ、とお願いしていたことが、今回実現しました。実は、一 小にもオストメイト対応トイレがあるのですが、そのことを知らない子どもたちも多くいます。私も学年と一緒に話を伺いながら、まずは「知る」ことが大切なのだと実感しました。学んだことを学校で、そして公共の場で生かしてほしいと願っています。

(副校長・丹野)

10月21日に4年生全員が、柴崎学習館において開かれていたパネル展を見学しました。



オストメイトとは・・・

様々な病気や事故などにより、お腹に排泄のための『ストーマ(人工肛門・人工膀胱)』を造設した人を『オストメイト』といいます。オストメイトはストーマ用装具を装着することによって、手術前と同じように社会生活を送ることが出来ます。

ストーマ(STOMA)とは、ギリシャ語で「口」を意味することばで、腹壁に造られた孔のことを指しています。

(厚生労働省資料等による)

さらなる学習・「OSTOMATE」の語源について考えてみよう!

「OSTOMY」+「MATE」、二つの英単語を結び付けたと考えました。

前者は、「人工肛門などを作る手術、消化管などへの人工の孔」を意味、後者は、「仲間」を意味する英単語です。

皆さんはどのように考えますか。学習の成果を聞かせてください。

(編集子)

編集子 ささやき・・・

折しも12月には、障害者週間が設けられています。

「理解する そしてつながる 笑顔の輪」、今年度の標語です。校舎北側の出入口の手前にあります

私もこの機に、様々な「障害者に関するマーク」があることを知りました。

「障害者のための国際シンボルマーク」「身体障害者標識」「聴覚障害者標識」
「盲人のための国際シンボルマーク」「ヘルプマーク」「耳マーク」「手話マーク」「筆談マーク」「ほじょ犬マーク」「オストメイトマーク」(右上に掲載)「ハート・プラスマーク」
「『白杖 SOSシグナル』普及啓発シンボルマーク」

1階昇降口、スクールメール横の掲示板に掲載します。ぜひ見て、自らの知識とし、かつ必要に応じて適切な行動ができるようになりたいものです。

(Y.M)

(原案・作成:撰梅 編集補助:庄司)

